

# 「オルタナティブな社会：ローカル志本主義へ」

2012年02月19日

税理士・AFP

場所文化フォーラム代表幹事

「とかちの・・・」、「にっぽんの・・・」大店長

LLC場所文化機構副代表

NPOものづくり生命文明機構常任幹事

NPO健康医療開発機構理事

ローカルサミット事務総長

吉澤 保幸

# 場所文化フォーラム(2003年8月)の結成と実践へ

## 「場所文化フォーラム」の目標

「場所文化」の創造によって、人々の新たな交流(地方と都市の新たな関係性の確立等)を促し、場所への資金流入と域内での資金循環の新たな仕組みを構築し、場所の自立(経済の活性化とコミットメント人口の増加、持続可能性の確保)を目指す。

## 「場所文化」の戦略的意義(現代社会の変革のキーワード)

「場所文化」とは、行政区画に拘らず、自然に包摂された一定のローカル空間(場所)において営まれる人間の歴史的な生活とそこでの自然との向き合いの中で紡ぎだされた言葉、景観、価値観、生活様式など(言わば風土)を言う。

「場所文化」は、多様かつ自然と共生する価値観への転換を意味する。。

## 場所の自立と都市との交流による自然との共生・循環モデルの構築

多様な「場所の価値」の再発見が起点(意識変革:ない ある)。

地域が開きながら都市との対等・補完の関係を構築し、ヒト・モノ・情報の継続的な交流を可能とする新しいお金(志金)の流れを組み込んだビジネス・ファイナンスモデルを運営し、場所文化を磨いていく。

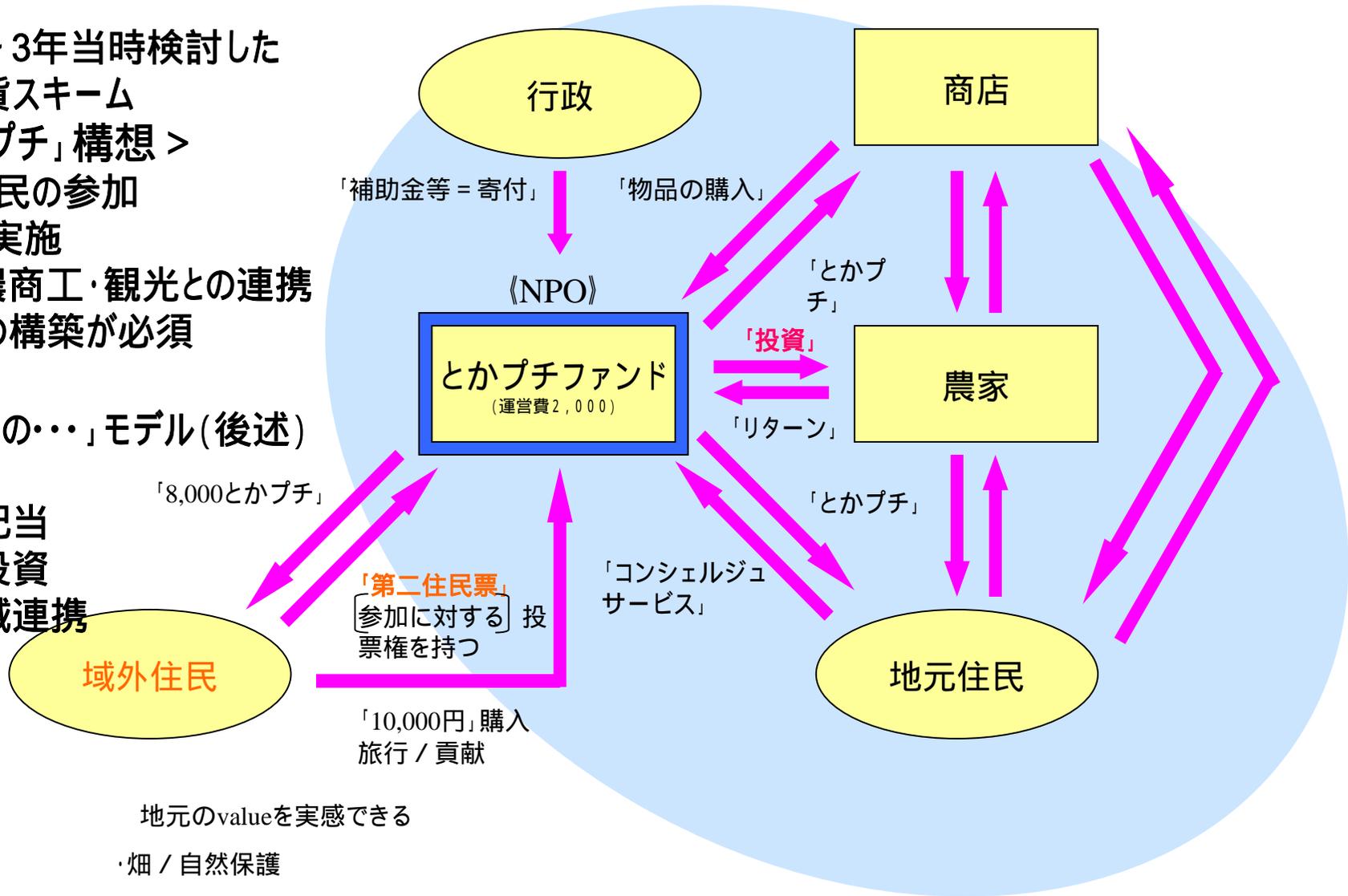
各地の動き(\*)が連動し、地域が元気になり、都市の人々と共に自然との共生、自然の恵みやいのちへの感謝の価値観を取り戻す。

(\*)連携の場所:十勝、金山、福島、高崎、勝沼、小田原、富山、愛媛、高知、熊本、鹿児島、etc

# 場所文化フォーラムの問題意識－志金の新たな流れの創出

2002～3年当時検討した  
地域通貨スキーム  
＜「とかプチ」構想＞  
・域外住民の参加  
・投資の実施  
・但し、農商工・観光との連携  
エンジンの構築が必須

「とかちの・・・」モデル(後述)  
に応用  
現物配当  
継続投資  
他地域連携



地元のvalueを実感できる

- ・畑 / 自然保護
- ・特別なツーリズム
- ・各種サービス・特産品開発

場所を創り(再生し)、  
出会いと交流により、  
新たな仲間を巻き込んでいく！  
—「場所文化」の創造と  
「お金の質を変える」実践の展開—



志民の連帯の場をつくり、  
 価値観の転換を図り、  
 新たな暮らし方を皆で模索する  
 —「人間中心の成長」から、「いのちの持続へ」の  
 価値観の転換を全国・アジアへ発信—



**< 我々の現状認識と対処へのアプローチ >**  
**現代文明への2つの警告を読み解き、**  
**根源的に対処していく**

**ーリーマンショック(2008)と、今次大震災(2011)の**  
**歴史的意味を問うー**

# 100年に一度の金融危機の意味 —歴史認識の転換を迫る！—

100年に一度の金融危機とは？

グローバル資本主義経済の根本的な有り方(= 拡大再生産、グローバリゼーション、資本の論理)をラディカルに問うている！

その結果は？

西欧近代文明の諸問題、自己矛盾が噴出(貧富の格差、自然環境問題、食糧問題、倫理なきマネーゲーム等)し、

ローマクラブ「成長の限界」(1972)の警鐘が具現化！

金融危機の具体的影響は？

お金がお金を生むロジックが崩壊する一方、実態のある生活から乖離したお金の翻弄され、地域にお金が廻らない現実に直面！

世界的不況により、財政破綻の可能性、高齢者の暮らしへの不安、若者の雇用の喪失、地球環境問題の解決に対する閉塞等を生む！

我々の課題は？

無事で安心な暮らし=いのちを紡ぎ、いのちを繋ぎ、いのちを次世代に伝える持続可能な社会、をどう描き、具体化していけるか

## 混迷するグローバル金融への対処方針

(どう対処していくか？ = 大きな処方箋)

資本主義経済を補完する新たな社会的仕組みをローカルから創出  
持続可能な地域社会とそれを支える新たな地域金融の仕組みの構築を実現し、アジア等へ発信していくことでグローバル問題に答える  
各地域の第一次産業を起点とする場所文化の創造に基づく都市と  
地域の交流モデル(=CB)の具体化と、自然との共生・循環の再構築を図る

新たな金融の仕組みは、「お金がお金を生む」世界からの転換と  
ローカルマネーフローの創出による

このためには、2つの前提を問う必要

お金の根本を問う

お金はいのちを繋ぐ道具であり、自らそれを創ることも出来るもの

国民国家の枠組みを問う

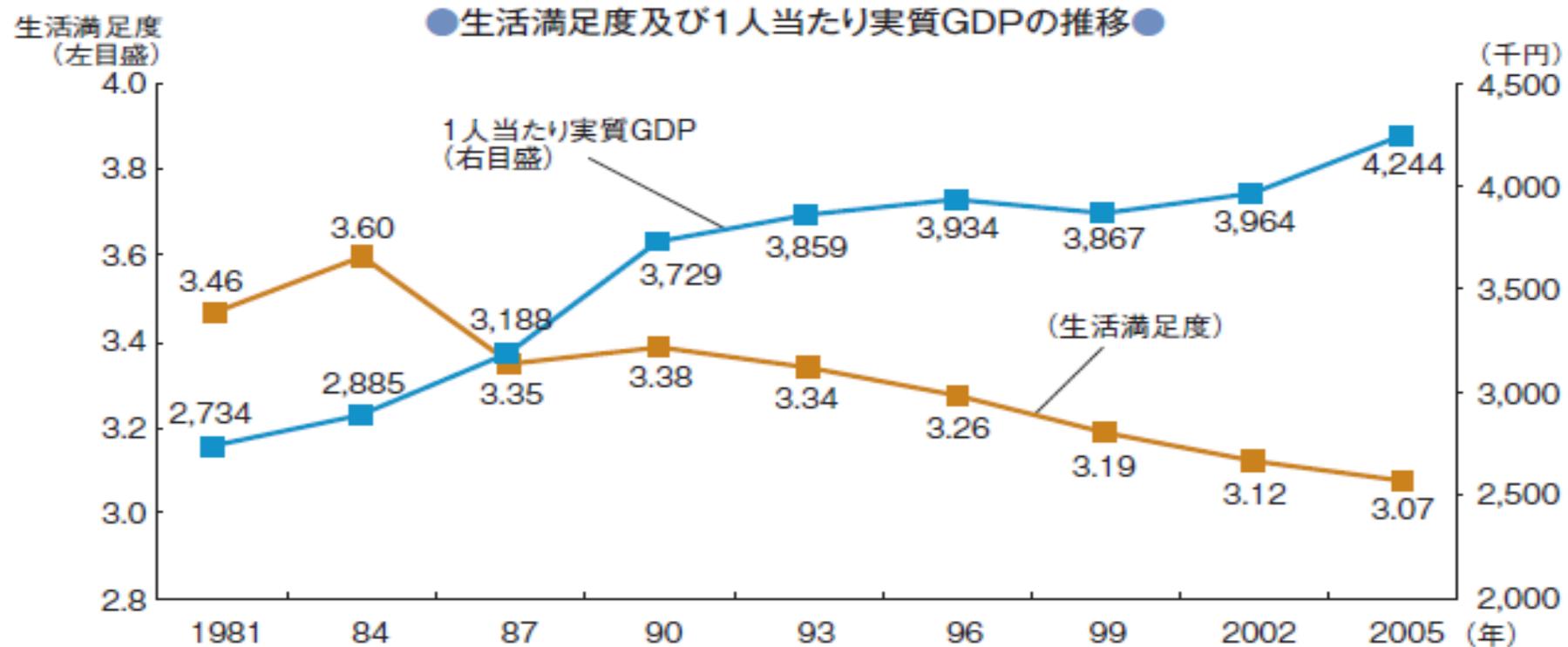
国民国家間の調整に全てを任せることは出来ない

この2つを問い直し、新たな持続可能な地域社会を志民がデザイン  
していく、その時かつての共同体にあった様々な共同管理的仕組み  
が大きなヒントとなる！

# 先進国での「幸福のパラドックス」ーその1

もはや日本の幸福度は、お金・成長(GDP)では計れない  
ー平成20年度国民生活白書より

第1-3-1図 生活満足度は上昇していない



- (備考)
1. 内閣府「国民生活選好度調査」、「国民経済計算確報」(1993年以前は平成14年確報、1996年以後は平成18年確報)、総務省「人口推計」により作成。
  2. 「生活満足度」は「あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。(○は一つ)」と尋ね、「満足している」から「不満である」までの5段階の回答に、「満足している」=5から「不満である」=1までの得点を与え、各項目ごとに回答者数で加重した平均得点を求め、満足度を指標化したもの。
  3. 回答者は、全国の15歳以上75歳未満の男女(「わからない」、「無回答」を除く)。

# 1000年に一度の東日本大震災の意味 - 自然と人間の災禍

1000年に一度の大震災と大津波の発生－人間の予測値を超越、最新技術の安心・安全(世界一の防潮堤、原発安全設備)が崩壊  
原発問題は、人間が自然に長期に亘る災禍となることを表面化  
エネルギー問題の発生に伴う首都圏機能の麻痺、経済的影響(風評被害)、および甚大なる土壌被害

政府等の危機管理能力の低さ露呈の一方で、ツイッター等の新たなメディア・情報力、そしてNPO等の役割の重要性

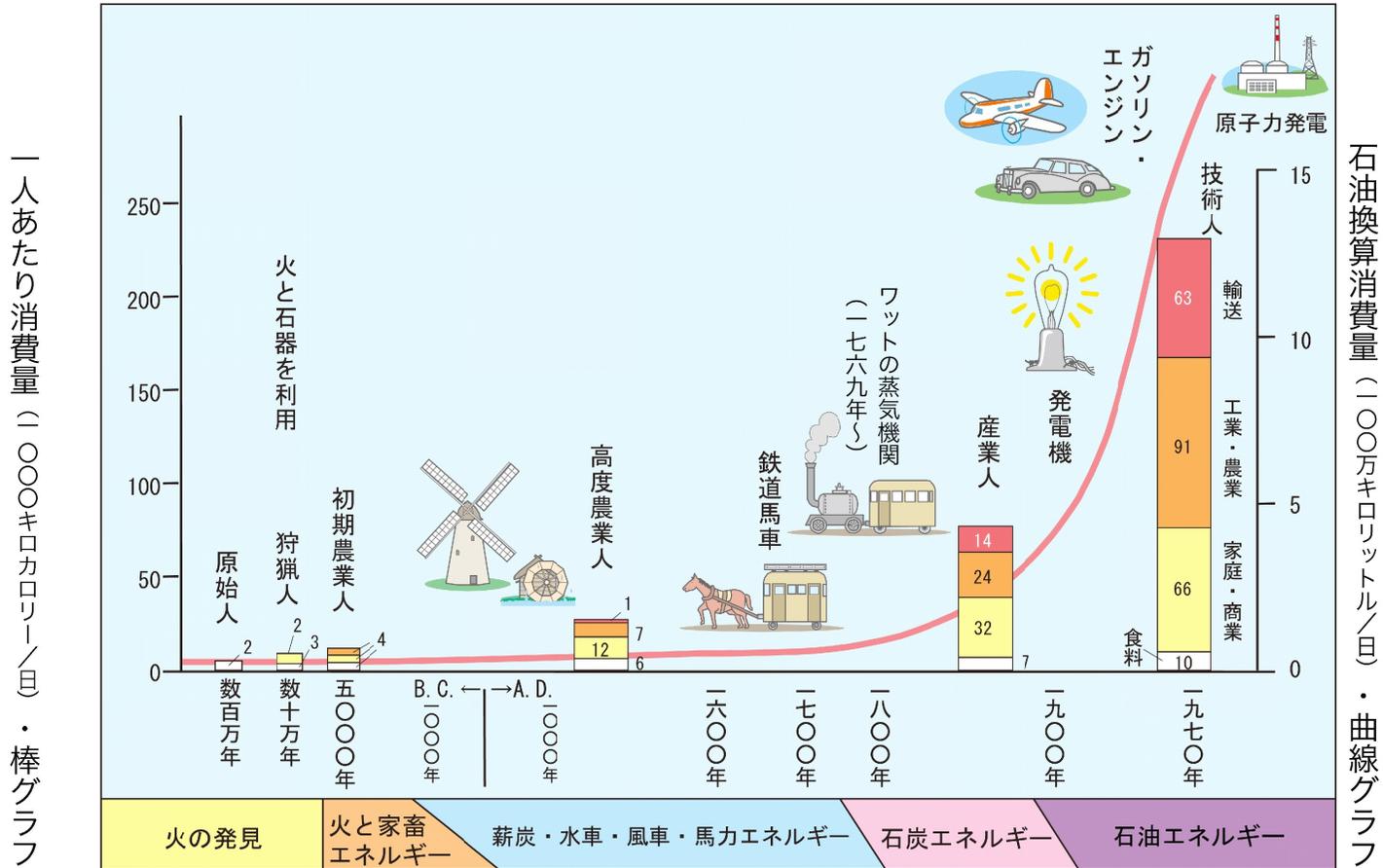
日本人の持つ利他・慈悲の心、秩序正しさ、忍耐力等の証明

日本人として、戦後66年間の物質文明のあり方を総括しつつ、深い祈りと共に、東日本の復興を通じ、新たな生命文明の地平を切り開く覚悟と行動が必要！

その意味で「第2の戦後」と位置づけたい！

# 「第2の戦後」への対処方針 - 物質エネルギー文明の終焉

## 人類とエネルギーのかかわり



原始人 百万年前の東アフリカ、食料のみ。  
 狩猟人 十万年前のヨーロッパ、暖房と料理に薪を燃やした。  
 初期農業人 B. C. 5000年の肥沃三角州地帯、穀物を栽培し家畜のエネルギーを使った。

高度農業人 1400年の北西ヨーロッパ、暖房用石炭・水力・風力を使い、家畜を輸送に利用した。  
 産業人 1875年のイギリス、蒸気機関を使用していた。  
 技術人 1970年のアメリカ、電力を使用、食料は家畜用を含む。

## 「第2の戦後」への大きな対処方針 - 生命文明の構築へ

高齢化、人口減少、経済の成熟化、世界の最先端国として、もはや真似るモデルは無い！

— 脱成長への転換、新たな豊かさ・ライフスタイルを自らの手で！

巨大な上(都市)からの効率的システムの崩壊から立直るには、等身大の下(ローカル・ムラ)からの仕組みの積重ね作業が必須！

— 都市自立の虚構性、脆弱性を露呈、お金で購えない現実を直視

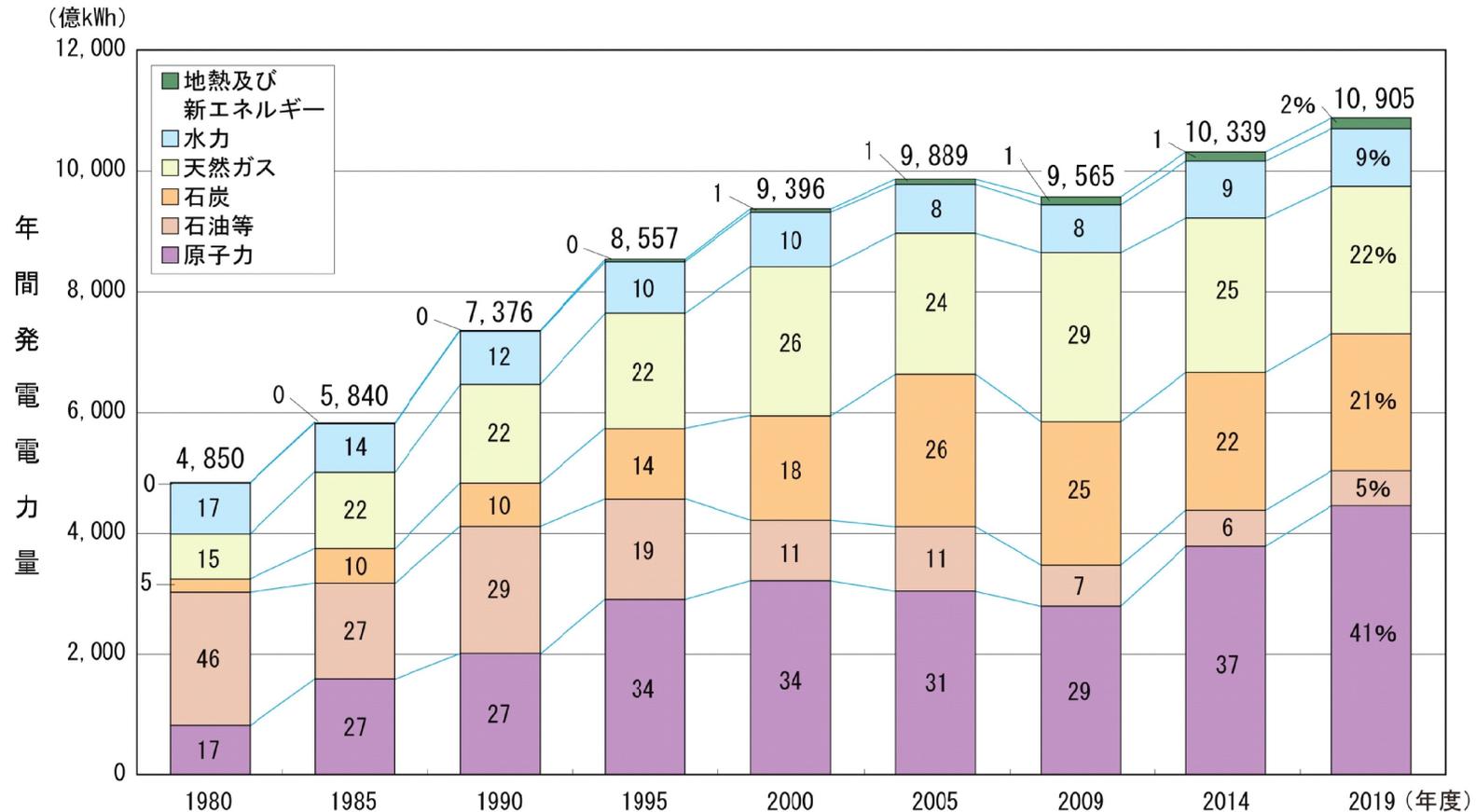
将来の「いのち」の持続に甚大なる影響を与える原子力からの脱却も覚悟をもって決断すべき！

— 生活水準ではなく、「生活の質」を高める作業、そして「核の傘」(政・官・財・金・情報複合体、原発マネーの呪縛)からの脱却も！

地域固有の場所文化の再発掘作業をベースに、いのちの紡ぎ直し(= 人と人、人と自然、生と死の結び合い)と、地域の自立と連携(= 医/食・農/住・エネルギー等ライフラインの自立と目に見える連携)の確保を図る：東北沿岸から日本の再生と自立を！

# 「第2の戦後」への対処方針－脱原発は1990年頃の電力消費

## 電源別発電電力量の実績および見通し



(注) 石油等にはLPG、その他ガスおよび瀝青質混合物を含む  
 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある  
 発電電力量は10電力会社の合計値（受電を含む）  
 グラフ内の数値は構成比（%）



# 資本の論理を問い直す = 拡大再生産から定常的世界へ

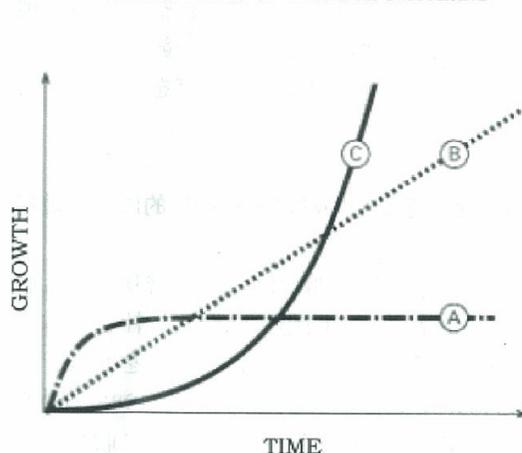
(持続可能なローカルマネーフローの創出のための金融機能の再考)

問題解決には、お金がお金を生むこと = 利子の再考が必須!

拡大再生産から「持続可能な経済社会」への移行では、複利の世界の修正が必須

一人間による自然資源搾取の下での成長・発展 利子・利殖 「お金がお金を生む世界」から、人間が自然・いのちとともに成熟・持続 利子無し・廻す 「いのちを繋ぐ道具としてのお金の世界」へ  
マルグレット・ケネディ「金利ともインフレとも無縁の貨幣」による説明

BASIC TYPES OF GROWTH PATTERNS



- ・A:自然界の成長曲線
  - ・C:ガン細胞の成長曲線、現在の通貨システムの要求
  - ・現在の経済システムは地球上の全天然資源を食い尽くす運命に
- 引用: 廣田裕之「持続可能な発展向けの補完通貨」より  
原典: "Inflation and interest-free money" (Margit Kennedy)

A. Natural curve  
B. Linear curve  
C. Exponential curve

## 「お金の質を変える」具体的な意味

現在の金融の特質 < グローバルマネーフロー >

お金がお金を生む (資本の論理) : お金が主役

短期間でリスクをミニマイズして儲ける : 今の金融機関

拡大再生産と利潤極大化の企業行動 : ビッグビジネス

オルタナティブな金融の特質 < ローカルマネーフロー >

お金はいのちを繋ぐ道具 : お金は脇役

長期に亘りリスクをシェアし温かく廻す : 共同組織的金融

儲けではなくお金を廻す仕組み創り : ソーシャルビジネス

「ローカル志本主義」が補完する社会へのワンステップ！

## < 第4回ローカルサミットin南砺 宣言、抜粋 >

今年も全国から志民が集まった。深い精神風土に彩られた「土徳の里」富山南砺に。

いのちが、今、脅かされている。9.11から10年が経過し、100年に一度の金融危機を経て、グローバル資本主義の混迷の度は増している。そして、3.11に我々に襲いかかった1000年に一度の大震災と津波という自然の災禍と原発事故という人間の災禍は、半年を経過した今もそこからの復興の道筋が見えていない。目に見えない敵となった放射能の不安と恐怖に、未だ怯えている。

この間、戦後の日本経済社会は、世界的交易の輪の中に自らを組み込み、全てお金で暮らしを、いのちを購えると確信してきた。しかし、今回の東日本大震災と原発事故はその象徴ともいえる首都圏の自立していた暮らしの虚構性を浮かび上がらせた。

これまで成長、効率、高齢化等の観点から世界の最先端をひた走ってきた我が国が、脅かされている「いのち」をどう自立的に回復させ、「いのち」を次世代に確実に継承できるのか、諸外国も注目している。

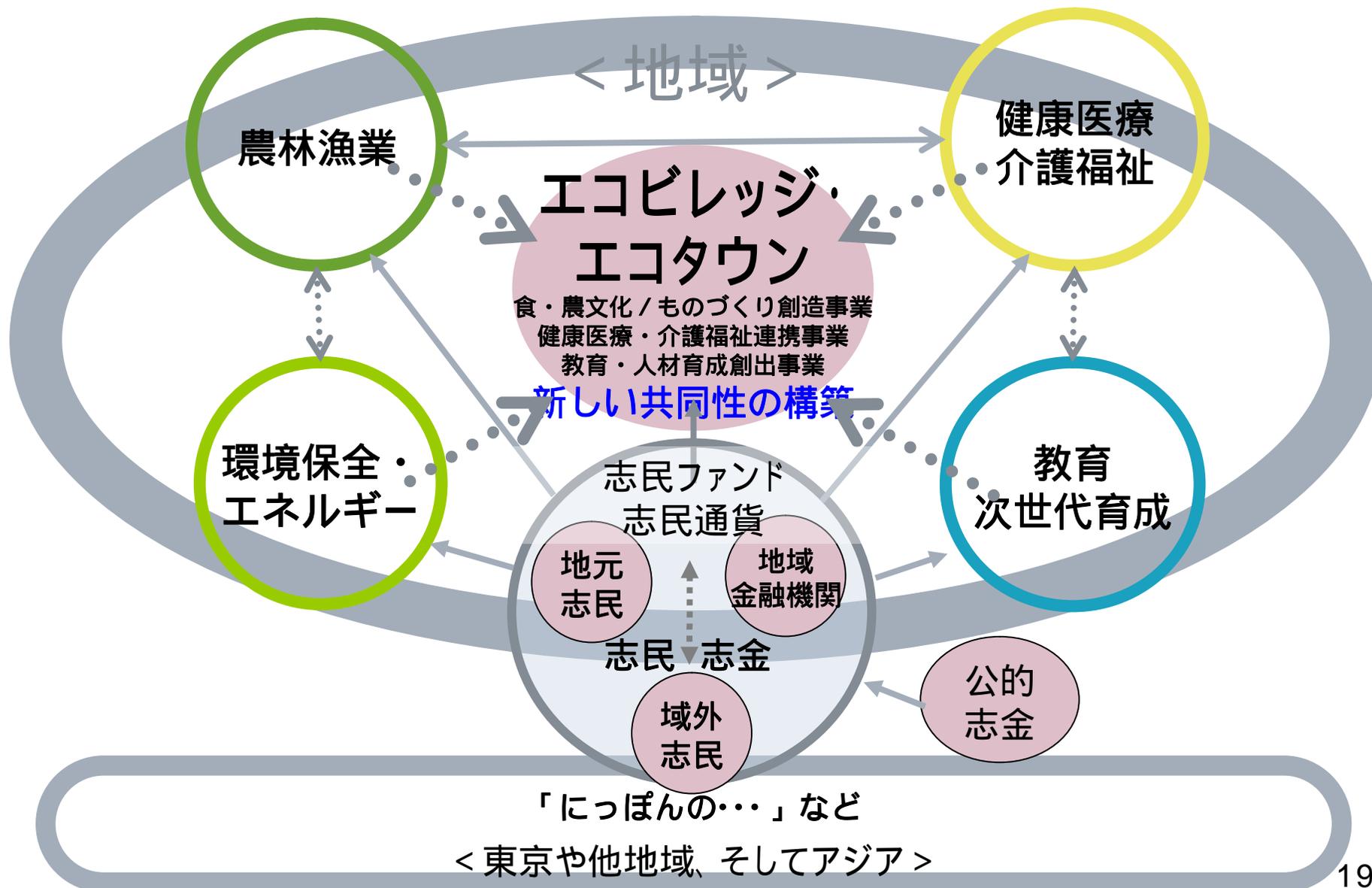
(中略)

我々志民は、3日間を通じ、「いのちの紡ぎ直し」をキーワードに議論し、眼前に生じた都市起点の巨大システムの瓦解に対し、もう一度等身大のローカルからの確かな「いのちの繋がり」を取り戻すには、お互いに、「目に見える関係性」を外に開きながら共有していくコミュニティーの再構築、いのち巡る「小さな循環」の形成と連携が必須であることを明確にした。

# 「小さな循環」による地域デザイン

## —「いのち」の4分野連携によるエコビレッジ・タウンの実現—

< 農商工・森里海連携、いのちの4分野連携、新たな金融の仕組み、他地域間連携 >



## エコビレッジフォーラム設立(2012.01)

- ー運営:場所文化機構、ものづくり生命文明機構
- ー指導・助言:環境省

### エコビレッジの概念整理

- ー自然再生エネルギー / 食・農林漁業 / 健康医療 / 教育  
の自立・自給・地域内循環  
「新しい公共」の具現化
- ーグリーンニューデール基金の実効的な活用
- ー志民・志業と首長・行政の連携、民間志金と公的志金の  
融合による自立循環型ソーシャルビジネスの構築  
アジアへの支援モデルの具体化(円高対策にも直結)
- ーバングラデシュ:アグラサーラ(孤児院)
- ーカンボジア:プレアビヒア寺院(世界遺産)周辺、etc  
脱原発依存とローカル志本主義の実現に向けての  
大きな具体的一歩となる！

## 「グローバル資本主義」を補完する「ローカル志本主義」とは

人間観：利己 利己 利他(利他の優越性)

自然観：人間が征服する対象 人間は自然の一部、自然との調和

主体構成：自立した個と市場 目に見える関係性・繋がる個と市場

目標：人間による限りない成長・拡大 地球環境・いのちの持続

経済原理：拡大再生産での成長 定常状態、家業としての継続

企業行動原理：利潤極大化 お金を廻し、配当なしのSBへ

お金の役割：資本の論理、主役 いのちをつなぐ道具、脇役

利子のかたち：高利・複利 低利子・単利、ないし減価

時間軸：短期決戦型 長期熟成型

通貨の位置付け：法定通貨のみ 地域通貨併用・他地域間流通

財産権：私有財産絶対 コモンズの公有管理の導入

財政の役割：国家財政依存型 ローカル共同体自主管理型

社会全体の構想：グローバル化不可避 ローカル基点の連携

「ローカル志本主義」の仕組みに基づく「小さな循環」を  
起点にし、「地域の自立と連携」を図り、いのちの繋がりを！

# 環日本海諸国図(通称「逆さ地図」) - 日本とアジアの連環 (富山県 / 国土地理院許可平6総使第76号)



終わりに

「ローカル志本主義」による  
オルタナティブな社会構想

それを支える  
「場所文化」  
「温かなお金」  
「いのちの持続」